

# 那賀川総合土砂管理

## 【那賀川総合土砂管理のロードマップ】

### 概要資料

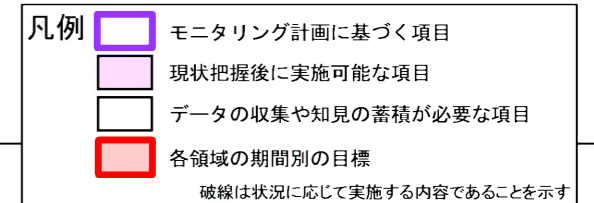
平成30年1月18日  
那賀川総合土砂管理検討協議会

## 目 次

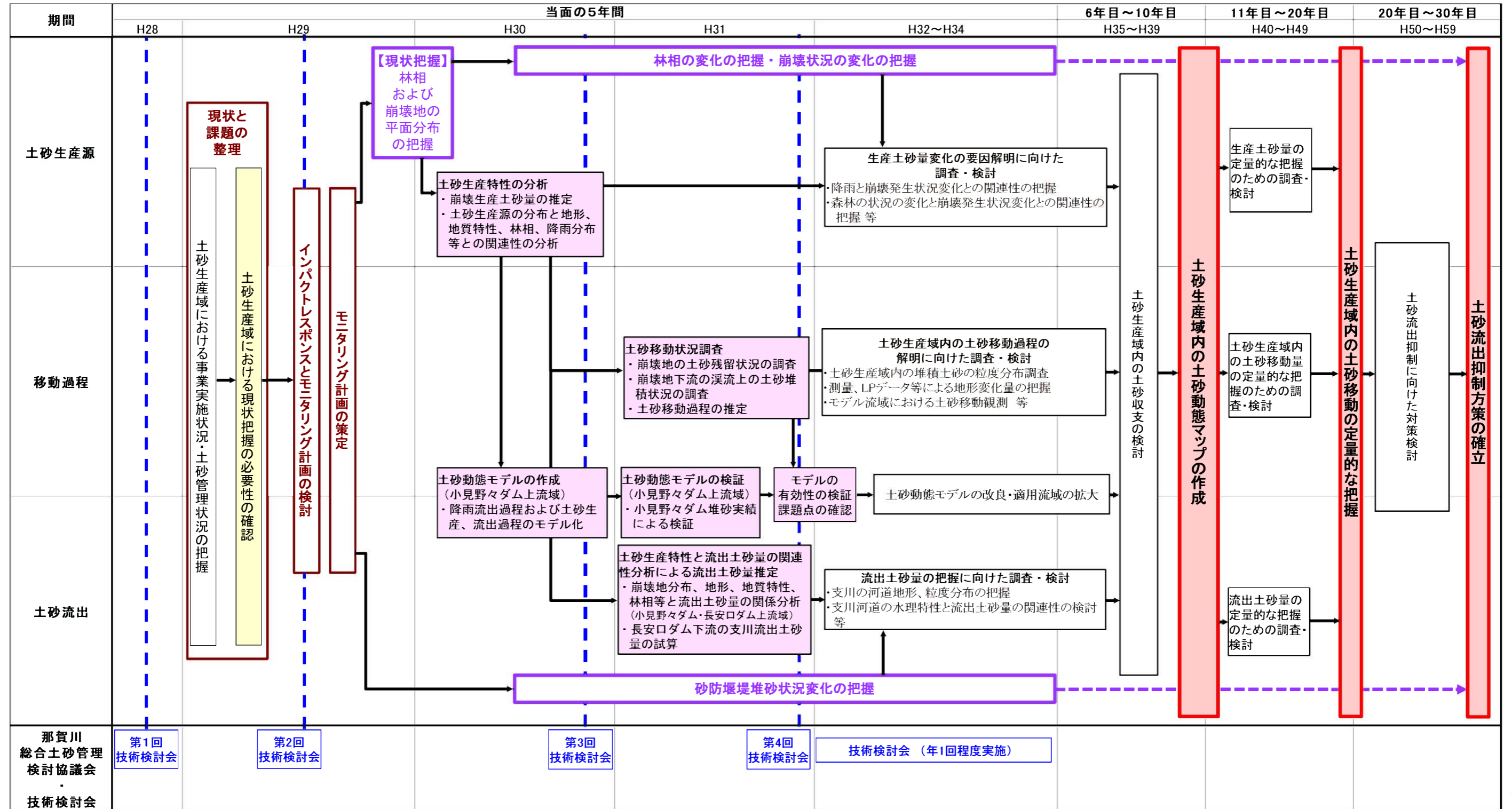
1. 土砂生産域のロードマップ案	1
2. 河道域のロードマップ案	2
3. ダム域のロードマップ案	3
4. 海岸域のロードマップ案	4

# 1. 土砂生産域のロードマップ案

- 那賀川の土砂生産・流出は活発であり、貯水池の有効貯水容量の減少や河床上昇に伴う流下能力の減少などの課題を引き起こしていることから、那賀川の土砂生産域における総合土砂管理の目標として、「**土砂流出抑制方策の確立**」を挙げた。
- 那賀川の土砂生産域における土砂動態には不明点が多くあることから、**当初の5年後～10年後の期間に「土砂生産域内の土砂動態マップの作成」に取り組む方針**とした。
- 10年後以降は、20年後を目途に、「**土砂生産域内の土砂移動の定量的把握**」により、対策すべき内容や規模を検討できるようにした上で、30年後の土砂流出抑制方策の確立に向けて対策を検討するスケジュール案とした。
- 平成30年度～平成31年度は、林相および崩壊地の平面分布について現状把握結果をもとに、以下の検討を行った上で、土砂生産域の土砂動態を解明するための調査・検討計画を立案する。
  - 崩壊生産土砂量を推定するとともに、**崩壊地分布と地形・地質・降雨との関連性**を分析する。
  - 主要な**崩壊地の土砂残留状況**および**下流の溪流上の土砂堆積状況**を確認した上で、**土砂移動過程を推定**する。
  - **崩壊地分布等と流出土砂量の関係**を分析した上で、**支川流出土砂量を試算**する。
  - **土砂生産域の降雨流出過程**および**土砂生産、流出過程のモデル化**を試行し、モデルの**有効性**や**課題点**について**検討**する。



## 土砂生産域のロードマップ案



## 2. 河道域のロードマップ案

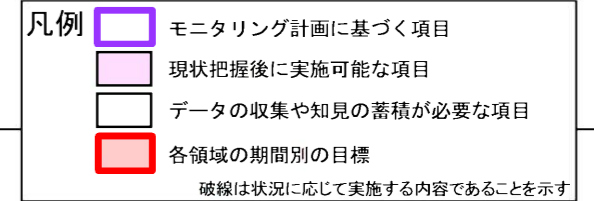
- 河道域では、那賀川水系河川整備計画(変更H28.11)における河川整備の基本理念を参考に、約20年後までの目標として「洪水や濁水に対して心配のない川づくり」と「砂礫が復活し清流が流れる川づくり」を設定した。
- 約10年後までの目標として、「土砂動態変化への対応策の確立」、「健全な河川環境の再生手法の確立」を目指し、10年後～20年後に手法の改善を図りつつ目標実現に向けて取り組むスケジュール案とした。
- 平成30年度～平成31年度は、現状の河道地形の航空レーザー測量(ALB)および河床材料粒度分布調査結果をもとに、以下の検討を行う。

### 土砂動態把握:

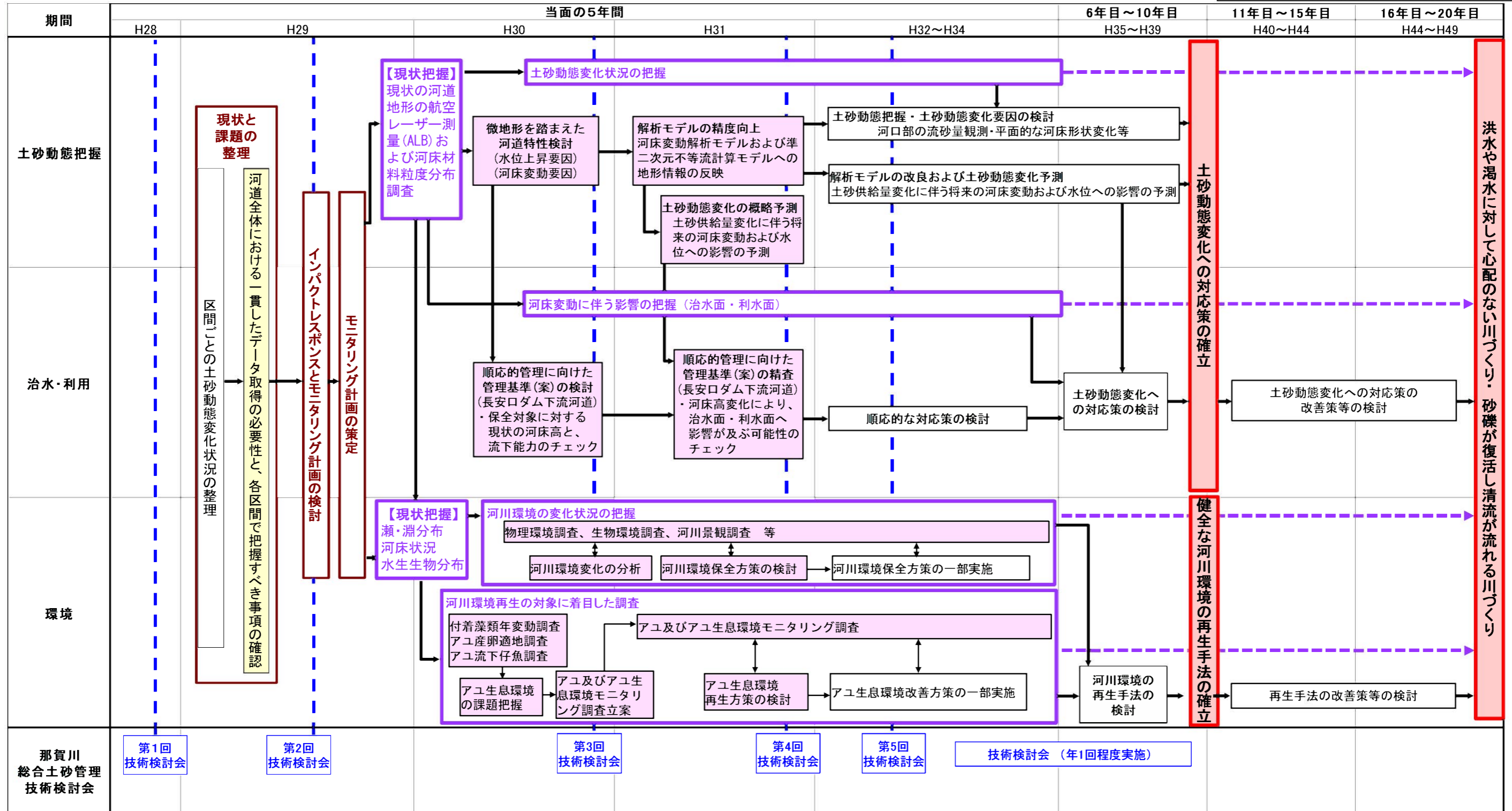
- 微地形を踏まえた河道特性(水位上昇要因、河床変動要因)の検討
- 河床変動解析モデルおよび準二次元不等流計算モデルの精度向上

### 河川環境:

- 瀬淵分布、河床材料状況、水生生物分布の現状把握
- 河川環境変化状況の把握、河川環境の再生に着目した調査により河川環境における課題点を抽出
- 課題点を踏まえた河川環境の改善方策検討

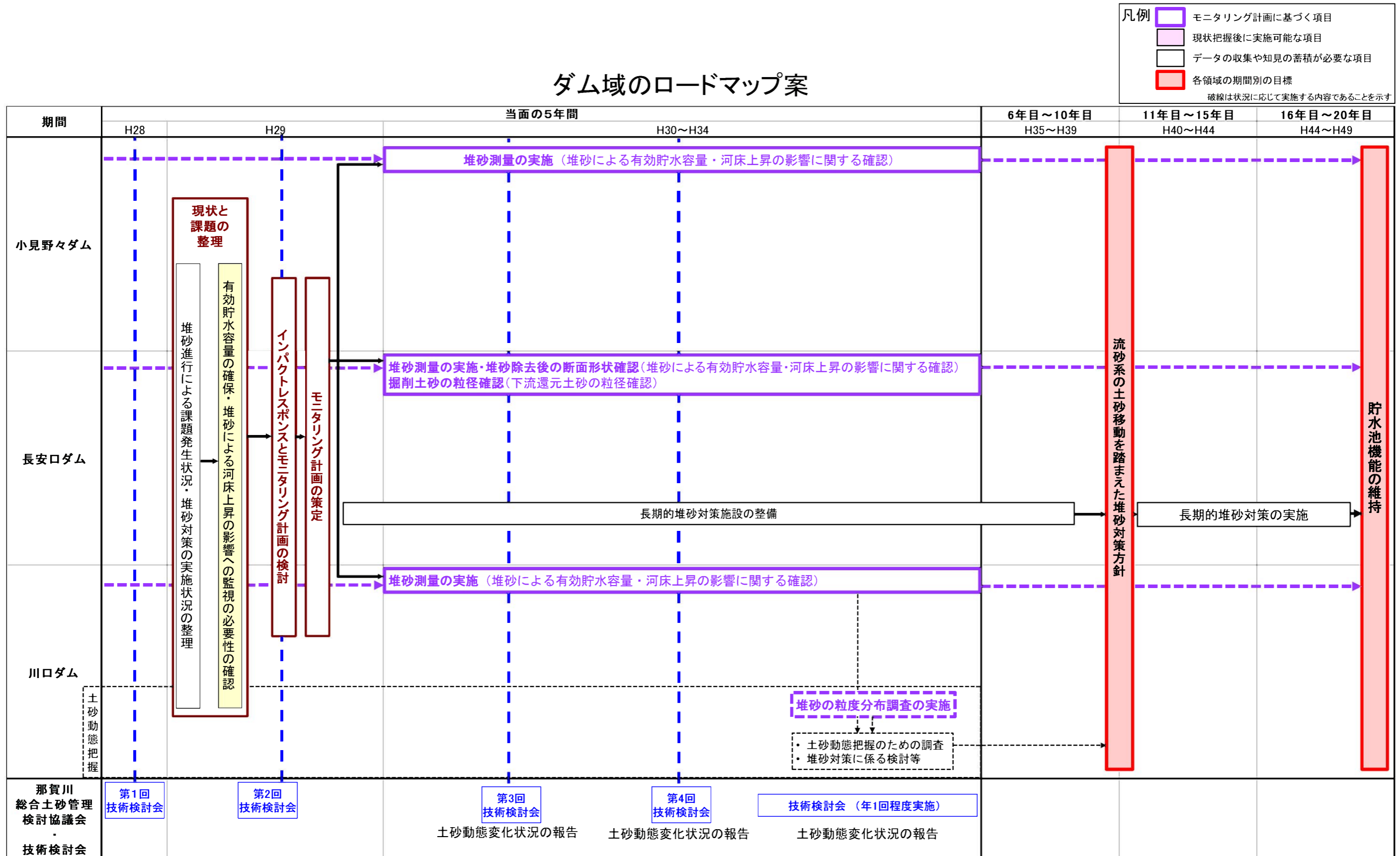


## 河道域のロードマップ案



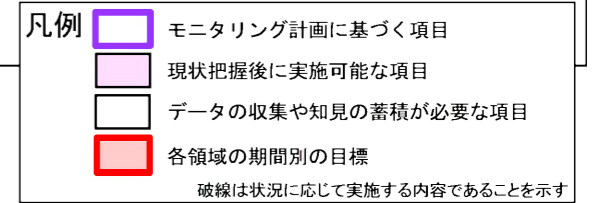
### 3. ダム域のロードマップ案

- ダム域では、有効貯水容量を確保することが重要な課題であるため、「貯水池機能の維持」を目標として設定した。
- また、現状では各ダムが個々に堆砂対策を実施している状況であるが、約10年後までを目途に、「流砂系の土砂移動を踏まえた堆砂対策方針」を立案し、土砂移動に関する他の領域との関連性を踏まえた対策を検討していくスケジュール案とした。



# 4. 海岸域のロードマップ案

- 海岸域では、約20年後を目途にして、「**海岸侵食対策事業の整備手法の検討**」を可能とすることを目標として設定した。
- 当面の5年間の初期段階において海岸の地形および底質の粒度分布の現状把握を行った上で、10年目までに「**海岸域の土砂収支把握**」を行い、土砂供給量増加による海岸域の土砂動態変化を予測に取り組むことを可能とするスケジュールとした。
- 平成30年度～平成31年度には、海岸域の土砂収支把握に向けた下記の検討を行う。
  - 現状の河口～海岸の地形および底質の粒度分布を把握する。
  - 現状把握結果をもとに等深線変化モデルの構築を行い、現状の土砂収支を推定する。
  - 港湾・漁港への土砂流入経路を推定した上で、土砂流入経路解明に向けた調査手法を検討する。



## 海岸域のロードマップ案

